

瑠璃



彼杵中学校
校長 川内康範

大盛況の少年相撲大会

生徒のたくましさ、素直さ
地域のつながり



10月6日(土)、彼

杵神社境内にて少年相撲大会が開催されました。本校からは16名が参加しました。初めて見る私は、正直なところ、中学生は相撲に興味があるのだろうか、大会が盛り上がるのだろうかという不安がありました。しかし、当日の会場の雰囲気は私の不安を完全に吹き飛ばしました。小学生を含めて百人以上の参加者、土俵の周りを取り囲む応援の皆さん。会場は歓声と拍手で大盛況でした。個人戦では3人抜きすれば賞品がいただけます。また、団体戦では千綿中を含めた5チームで戦いました。結果はBチーム(岡優作・福田祐一郎・大安慶吾・宮崎匠吾・山本蓮)がみごと優勝をつかみ取りました。この相撲大会は東彼杵相撲



協会が中心になって開催されていますが、地域に根付いた行事であることを強く感じました。参加した力士の皆さん、お疲れさまでした。

小結・関脇・大関による役相撲です。金谷君・辻田君・濱田君が務めました。

1年生の皆さん、 いよいよ坂本浮立の本番ですね。



10月21日(日)、坂本浮立奉納会が開催されます。これまで1年生は総合的な学習の時間を使って、横笛の制作、浮立の笛の練習をしてきました。毎週指導に来てくださったのは、

坂本郷にお住いの川添さんです。ユーモアを交えながら、楽しく指導してくださいました。そして、今度の日曜日がいよいよ本番です。頑張らしましょう。



中学生の心

秋本番、朝夕は寒く感じるくらいですね。学校ではキンモクセイのいい香りが漂っています。この季節に思い出すのは、1年生の国語の教科書に載っている「星の花が降るころに」という物語です。内容を簡単に紹介します。この「星の花」



は銀木屋(ぎんもくせい)の花を指しています。銀木屋は、主人公の中学1年生の女の子が小学生の頃友だちと一緒に遊んだ思い出の木です。しかし、中学校に入学してしばらくすると仲の良かった友だちと会う機会も減り、しだいに二人の関係はぎくしゃくしてしまいます。以前のような関係に戻りたいけどうまくいかない、多感な女の子の気持ちに手が取るように伝わってくる物語です。中学生の子どもたちは、日々の生活の中で本当に敏感にいろいろなことを感じながら、ドキドキしながら暮らしているんだなと改めて思います。多感であることは少々厄介で生きづらい時もあるのですが、しかし、それがまた純粹ですばらしいところでもあると思います。(年を重ねていくとドキドキすることも少なくなっていくます。)主人公の女の子は自分とは違うタイプの同級生の姿を見ながら、また、葉っぱを落としては次の葉っぱを生やして育っていく銀木屋を見ながら、元氣を取り戻し、再び前を向いて歩き出します。彼杵中の子どもたちもひとりひとりの心の中では、物語と同じような日々を過ごし、それでもがんばって生活していると思います。がんばれ、中学生!